

各地の集落活動センターの事例紹介

大豊町
西峰

西 峯

(人口212人、世帯数144世帯、高齢化率75.9%)

コンテナによる杉苗の生産と販売



試験栽培中の杉苗の生産ハウス

1. 経過

公民館の移転をきっかけに、**住民が気軽に集える場の建設**を要望。住民が役場等とともに、施設の利用方法や**地域の特長を生かした収益活動**などについて話し合いを重ね、平成27年3月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

拠点施設では、**健康体操や共同集荷**などに取り組んでおり、事務局として活動している集落支援員も駐在しています。集落支援員を中心に、**音楽祭を開催**する他、**杉苗のコンテナ栽培**に取り組み、木材の地産地消・地域内循環の仕組みづくりに取り組んでいます。

3. 地域の声

平成27年度から試験的に始めた杉苗の生産は、28年は2千本、**29年には2万本の出荷**を目指しています。

林業版
ロールモデル

安田町
中山

なかやま

(人口550人、世帯数272世帯、高齢化率48.9%)

地元産自然薯の生産拡大



大学生も加わり、自然薯(山芋)の栽培をしています

1. 経過

住民から**休校となった中山小中学校の活用**を求める声が出されたのをきっかけに、町と県から集落活動センターの取り組みを提案。事業の実施を決定し、平成25年4月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

集落支援員や地域おこし協力隊が事務局を担当し、高齢者の**買い物支援**や**特産品の自然薯(山芋)の栽培や販売**、自然薯を使った**加工品の開発**などに取り組んでいます。

3. 地域の声

平成28年度からは**自然薯(山芋)の生産を拡大**し、販売拡大により地域内での働く場を増やしたい。そうすることで、**地域でお金が回る仕組み**をつくらうと考えています。

梶原町
初瀬

はつせ

(人口134人、世帯数70世帯、高齢化率53.0%)

韓国風サウナとレストラン経営



チムジルバンの外観と内部の様子

1. 経過

韓国との交流をきっかけに始めたキムチづくりや高齢者等への配食などの取り組みに加え、**新たな交流施設の運営**を行うため、地域内の組織で推進委員会を立ち上げ、平成25年1月に集落活動センター「はつせ」を開所しました。

2. 概要

平成27年3月からは**韓国風サウナ(チムジルバン)と韓国風レストラン**をオープンし、経営しています。オープン以来集落人口の2.6倍、**約3,500名のお客様**が訪れています。

3. 地域の声

「知る人ぞ知る癒しの隠れ家」をコンセプトに運営しています。多くの皆さんにお越しいただき、初瀬区・梶原町の良さを知っていただきたいです。

津野町
郷

奥四万十の郷(さと)

(人口367人、世帯数165世帯、高齢化率46.3%)

奥四万十博を見据えた農家レストランの運営



地域の食材の調理方法を学んでメニューづくり

1. 経過

廃校となった小学校に代わる地域のランドマーク建設を要望する集会所建設委員会が発足。料理が得意な**女性達も話し合いに加わり**、特産品づくりや農地保全活動等を盛り込んだ**郷地区活性化プラン**を策定し、平成27年6月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

地域内の若者も参加できる婚活イベント「郷で郷コン」の開催や**清掃活動**、また平成28年度に高幡地域で開催される奥四万十博に訪れる観光客などを見据えて、地域の食材を用いた**農家レストランの運営**を行います。

3. 地域の声

拠点となる施設が平成28年3月に完成しました。今後は**高齢者の集いや地域食材を使った食堂**などの運営などを始めます。

四万十町
西土佐大宮

みやの里

(人口282人、世帯数132世帯、高齢化率51.1%)

日用品販売店舗など、住民生活を地域で支援



支え合いのしくみ

1. 経過

JA支所の閉鎖をきっかけに、住民が出資した株式会社**ガソリンスタンドや日用品販売店舗を経営**してきましたが、地域全体で人口減少や高齢化といった課題に立ち向かうため、地域内の住民や団体が構成する組織を設立し、平成25年5月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

ワークショップで出された意見を6W2Hで分類・整理し、できそうな内容からスケジュールを作成し実行。**放棄竹林の整備**や月2回の**食堂(大宮ランチ)の運営**、旧保育園を改修し、平成28年からは**葬儀**も行うようになります。

3. 地域の声

危機感を住民が共有し、その上で**アイデアを出し合い、協力し合いながら取り組む**ことが大切です。

仁淀川町
長者

だんだんの里

(人口625人、世帯数281世帯、高齢化率38.6%)

農家レストラン「だんだんの里」の運営



地域内外の交流拠点にもなっています

1. 経過

平成15年にボランティアグループによる棚田の再生活動が始まり、棚田でのイベントを実施してきました。町外からのイベント参加者向けの飲食提供を検討している中、**高知県知事との座談会で集落活動センターの仕組みを知り**、平成24年12月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

「だんだんつうしん」の発行や**農家レストランの運営**、社会福祉協議会から受託した配食などに取り組んでいます。

3. 地域の声

子どもたちが、休日に友達と**「だんだんの里」に行くのを楽しみ**にしてくれています。

三原村
全域

やまびこ

(人口1,669人、世帯数773世帯、高齢化率43.4%)

農業公社と連携した、シトウの生産



新たにハウスでシトウを栽培するよう準備中

1. 経過

村唯一の生鮮食品販売店の閉店をきっかけに、安心して暮らすことへの危機感が高まり、村内の住民団体や関係機関で構成する集落活動センター推進協議会を立ち上げ、協議を重ね、平成26年3月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

買い物拠点「みはらのじまんや」の利用促進、ユズなどの特産品を使った加工品の試作、高齢者や若者の働く場として、**ハウスでシトウ栽培**を開始するなど、住民のアイデアを生かした様々な取り組みが始まっています。

3. 地域の声

何から始めるか、**話し合いを積み重ねた**ことが、現在の取り組みにつながっています。

農業版
ロールモデル

本山町
汗見川

汗見川

(人口179人、世帯数92世帯、高齢化率59.2%)

体験イベント充実の宿泊交流施設



年間約1,000人が利用している「汗見川ふれあいの郷 清流館」

1. 経過

地域を流れる汗見川を守る活動を40年以上続ける中、平成20年度には宿泊交流施設に改修された旧沢内小学校「**汗見川ふれあいの郷 清流館**」の運営を開始。これまでの活動を拡充し、担い手を育成すること等を目指し、平成24年6月に集落活動センターを開所しました。

2. 概要

ソバ打ちやピザ焼き体験、地域食材を利用した**ランチバイキングや川遊びイベントの開催**、特産品の**シソを原料にした加工品**を地元企業と共同開発しています。

3. 地域の声

「やれる人が、やれる時に、やれることをする」を合言葉に、仲良く、楽しく活動しています。